# おわりの つづき

## 2024.Jan Vol.1 suisai 2nd アルバム『23億回』リリースに寄せて

黒（聴き手）：Shige
青（語り手 1）：Komei
赤（語り手 2）：2gou

――今日は suisai の新アルバム『23 億回』について、2gou さん Komei さんにお話を伺っていきたいと思います。お二方よろしくお願いします。

2・K：よろしくお願いします。

――『23 億回』、さっそく聴かせて頂きました。素晴らしい完成度のアルバムで、何度も繰り返し、将来にわたって聴き続けたくなるような作品だと思いました。この『23 億回』というタイトルはどういった意味があるのですか？

K：ありがとうございます。今回のアルバムのタイトルである『23 億回』は、「心臓が生涯に拍動する回数」が 23 億回と言われていることから着想を得ています。23 億回の鼓動が鳴り始めてから鳴り終わるまでの間に起きる人生の様々な事象を、1 枚のアルバムで表現したいという想いで作り始めました。

――だから楽曲も時系列順になっているんですね？

K：お気づきの通りです。一生の間のいくつかの象徴的な出来事を時系列で並べて、最後に命を終えるところまでを時系列順で描いています。また、「特定の人の。23 億回」という見せ方ではなく、「それぞれの。23 億回」を切り取るように意識しています。いまこの瞬間に 60 歳の人もいれば、20 代 10 代の人もいる、男性も女性も、置かれている環境も違い、互いに完全に分かり合えない孤独の中で、同じ時代を生きていることを表現しようと試みました。時系列的な聴き方と、群像劇的な聴き方が出来、年を重ねてからもう一度聴くとまた違ったものが見えてくるようなアルバムになっています。

――CD のアートワークも一つのアート作品のようですね。

2：CD の箱を「人体」のメタファーとして捉えて構成しました。人間の身体は皮膚に囲まれて、その中に骨や筋肉・内臓があって、中を覗いてみると結構グロテスクでちょっと禍々しかったりしますが、その雰囲気を表現しようと思いました。例えば、封入してあるライナーノーツはあえてくしゃくしゃに丸めているのですが、小腸とかの内臓のひだをイメージしています。

――トレーシングペーパーを透かして文字を読む体験も新鮮でした。箱のステープルは銅ですか？

2：そうです。長く手元に置いて頂いて、風合いの変化も楽しんで頂けるようになっています。

――アルバムの楽曲についてもお伺いします。オリジナルの楽曲が 7 曲、カバーが 6 曲収録と、オリジナルの比率が高めですね。

2：収録曲のうち 3 曲（「身体」「名づけない」「Tiny Shiny Waltz」）の編曲は倉田京さんにお願いしたのですが、依頼の際もほぼお任せでしたね（笑）。今回のアルバムには多様な考え方や視点が取り入れられていったため、聴き手の側によって解釈が異なってくる、suisai 自身も明確な答えを持っていないところが面白い点だと思います。

K：Mixing / Mastering も「Interlude」以外は私が担当したのですが、自分が編曲した楽譜ではない楽曲の音源編集はかなり刺激的でした。編曲者とのサウンドイメージのすり合わせをしつつ、自分たちの解釈やアルバムとしての一貫性を保つための工夫を重ねたことで、サウンド面でも多彩なアカペラが楽しめるアルバムになったと思います。

――1 曲目の「nobody」は凄い命のエネルギーを感じます。そこから 2 曲目の「birth」へとシームレスにつながり鼓動が始まる様が表現されているように感じます。nobody の言語はオリジナルですか？

K：はい。赤ちゃんの喃語から着想を得て作った言葉で、どの国の言葉でもないけれども、何となく日本語に聴こえなくもない…くらいのバランスを目指しました（笑）。ラテン語っぽい巻き舌に、母音はちょっと北欧系で、発声や和声にはブルガリアンヴォイス的なニュアンスが入っています。「birth」へ繋がって入る Mix も演出的にいい効果を出してくれました。

――6 曲目、amazarashi の「未来になれなかったあの夜に」は suisai にしては少し異色というか、ストレートな歌が刺さりました。

K：「未来になれなかったあの夜に」はすごく難しい楽曲でしたね。解釈の余地があまりない楽曲だったので、リードを二人に分けて「過去の自分」と「今の自分」の対話形式をとることで曲に時間軸を作っています。

2：ストレートな曲なので、ストレートな曲をどれだけまっすぐ歌いきれるかはリードを歌うときに意識しました。「未来になれなかったあの夜」や 11 曲目の「グッドバイ」は、ある種の「力技」的な楽曲で、従来の「楽曲や詞に解釈の余白をつくる」というアプローチとは異なり、歌う suisai の側が、例えば鉾のようなものを思い切り撃かせるようにやメッセージをぶつけて、その反響に聴き手の心を共鳴させるような側面があるかな、と思います。

――7 曲目の「Interlude」を境に、アルバムの後半の楽曲は、老いや諦念、死別といった人生の暗い側面にフォーカスしています。印象に残ったのは 8 曲目「秘密」で、なかなか日本では聴くことの出来ない独特な雰囲気の楽曲ですが、どういった経緯でこのサウンドになったのですか？

2：元々は、ある機会に倉田京くんと一緒に画家の「井上直」さんの展示を見に行ったのが原体験です。直接お話を伺う機会にも恵まれ、また作品を拝見する中で感じた「日常と絵を書く時間のバランスや境界の危うさ」を楽曲に落とし込んでいます。「「生きている」ということ」は絶えず生活を続けること――楽曲の中で「わたし」は家族の洗濯物をたたみ続けて、家族の目玉焼きを作り続けて、家のトイレを綺麗にし続けます。それらを延々繰り返す隙間に、台所で「わたし」は絵を描くんです。全体的に暗く、ともすれば刺激的で怖いような歌詞を、人生のドタバタ劇のように、どこかコミカルでチャーミングな感じに編曲で仕上げてもらったので助かりました（笑）

K：2gou から曲のメロディと歌詞が共有された時点で、この歌詞・この変拍子だったので正直頭を抱えながら作りましたね（笑）

井上直（いのうえ・なお）
画家。1954 年生。静謐で抒情的な風景描写と、その中にある「白紙」のモチーフによる、孤独や寂寞、「存在」についてのイメージを惹起する作品が特徴。
2019 年に画集「NAO INOUE」を発行。

――12 曲目の「生まれた日」は、アカペラの源流でもある教会音楽のような神聖さがありますね。

K：この楽曲は The King's Singers の「The Rose」のアレンジから着想を得ているので、クラシカルな印象はそこから来ているのかもしれません。今回のアルバムは、日本人的な輪廻転生の死生観がそこはかとなく流れていて、「神様のおかげ」とは言わないけれども、あの世の存在や生まれ変わりはちょっと信じている。生きることの感謝が天へではなく、家族や友人、身の回りの人へ向く。常に他者と自分の関係性が描かれたアルバムだなと感じます。

――1 曲目から 12 曲目までも十分に良いアルバムだと思っていたのですが、13 曲目の「Pulses」も本当に美しい楽曲ですね。

K：とても良い曲を 2gou が作ってくれました。「この曲は蛇足だから！」「エピローグだから！」と何度も念押ししていましたが（笑）、個別のエピソードの集まりだった 12 曲に一貫するメッセージを付与して普遍化してくれた重要な楽曲です。

2：この楽曲については多くは語りません。このアルバムを作ることは、自分たちの人生や命と向き合うことであり、テーマの重さに苦しむ時間も長かったのですが、この楽曲やアルバムを通じて私たちの想いが伝わることを祈っています。

――お二人の中で、特に思い入れがある楽曲などはありますか？

2：「ポートレイト」は完成度の高い楽曲だなと思います。この曲を聴くと、七五三や入学式などで可愛い服を着て 写真を撮ってもらう家族の姿や、秋の光の中でくるくる回る女の子の様子などが思い浮かびます。

K：元々はフォトグラファーの momoco さんの作品からインスピレーションを得て作った楽曲で、どちらかといえば夜景や大きな構造物の中にいる大人の女性がイメージの原点なのですが、楽曲の後半の繰り返し部分には被写体の女性が幼いころ撮った写真や成長記録的なイメージも含まれているので、人によって感じ取り方が違ういい例ですね。

K：私は「Tiny Shiny Waltz」が一番気に入っています。アルバム全体の中で最も命の終わりに近い瞬間を描いている楽曲なのに、穏やかで優しく、幸せそうなんです。自分が最後の時を迎える時にきっと思い出すだろうなという楽曲になりました。

2：私の中で C 調は白色のイメージで、白は死を連想させるため、「Tiny Shiny Waltz」も C 調を選んでいます。年を重ねると目や耳の感覚器官はだんだん衰えますが、一方で触角が拡大していたり、凄く広い地平線が広がるように昔話をしたりと、年老いた方の持つ感覚は我々には追いつかないものがあるなと思いながら書きました。

――ありがとうございました。最後に、suisai の今後の活動や目標についてお伺いします。

K：まずは『23 億回』をなるべく多くの方に聴いていただけるようにしたいですね。なかなかライブを行うことが難しい時期のため、Music Video などの演奏以外のコンテンツ制作にも取り組みたいです。

2：今後は国内だけでなく、海外へも進出したいと思っています。もし人類の全ての行動の心臓の鼓動の音とか、お互いに聞こえるようになったらどんな風だろうか、とふと想像したりします。当然ですが、お互いが生きている音は普段こうしていても聞こえないんです。でも、今回の『23 億回』のように媒介になるもの・依代になるものがあれば、人々がどうやって生きているか、何で生きているのか、というのが浮き彫りになる。その呼び水に出来たらよいなと思います。

K：もちろん、次のアルバム制作も既にスタートしていますので、ぜひそちらも楽しみにお待ちいただけたらと思います。

収録日　2023 年 10 月 4 日
構成・書き起こし　Komei.Waku
デザイン　2gou

倉田京（作曲家、作詞家、ポリフォニックで多・的、だれもいるような楽譜を特徴とし、アカペラをはじめピアノや EDM などの多彩な作品を制作している。
「23 億回」においては「身体」「名づけない」「春雨」「Tiny Shiny Waltz」の作編曲を手掛ける。
X：@KKyoKurasia

momoco：フォトグラファー。風景やポートレートをはじめ、多彩な写真を用いた視覚のもとで色彩豊かに生きしている。
「23 億回」では「ポートレイト」の作品モチーフとなる。
Instagram：@momoco_photo

聴き手：Shige
Vocal：suisai 日本音楽界代表、（一社）Vocal Japan 代表理事。
国内外のプロ・アマチュアグループとの豊富なコネクションを持ち、アカペラを通じた国際交流活動に従事。
語り手 1：Komei
アカペラグループ suisai にてベース、編曲、サウンドディレクション等を担当。
各種講習やバンドクリニックを 150 回以上実施するなど、指導者としても活躍。
語り手 2：2gou
アカペラグループ suisai にてリリック、デザイン、作詞作曲を担当。
各作品のアートワークやモノローグを制作し、suisai の音楽作品をホリスティックな視点で生成している。

suisai 2nd Album「23 億回」2023.9.23 release
CD（受注生産）3,500 円（送料込）